



平成 27 年 6 月 30 日

全国棚田(千枚田)連絡協議会会員の皆様

棚田学会会長
千賀裕太郎

平成 27 年棚田学会大会シンポジウムの開催について

梅雨の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日ごろより棚田学会にご協力頂き誠にありがとうございます。

さて、平成 27 年棚田学会大会シンポジウムを下記の通り開催いたします。

ご多用中とは存じますが、奮ってご参加下さいますよう、宜しく願い申し上げます。

記

1. 日時 平成 27 年 7 月 31 日 (金) 14 時～17 時 45 分

2. 場所 三越劇場 (東京日本橋三越本店 6 階)

3. 棚田学会大会式次第

◆シンポジウム「棚田保全にかかわる後継者問題」(14:00～17:45)

資料代 一般 1000 円、学生 500 円)

◆懇親会 (18:00～20:00)

参加費 6000 円

4. その他

参加ご希望の方は、7 月 17 日 (金) 迄に FAX、E-mail または、郵送でご返信下さい。

以上

棚田学会実務担当：高橋
携帯 090-4817-1083 FAX：042-385-1180
E-mail：tanadagakkai@gmail.com

平成27年棚田学会大会シンポジウム

棚田保全にかかわる後継者問題



丸山千枚田（三重県熊野市）提供：熊野市ふるさと振興公社

ぜひ参加して下さい！

日本の原風景である「棚田」が「一度は行ってみたい！日本の絶景」として旅行代理店に選ばれ、BBC等海外のメディアからも注目されはじめています。

しかし今、その棚田を維持管理する人々は高齢化し、担い手不足の傾向にあり、棚田百選に選ばれた地区においても、耕作放棄が進むのではないかと危ぶまれています。

棚田学会は、棚田保全に役に立つ学会として創立以来、棚田の重要性を様々な角度から考えてきましたが、今年のシンポジウムでは、「棚田保全にかかわる後継者問題」に注目し、各地で実践されている棚田保全・地域保全の実情から学び、持続可能な棚田保全のあり方を話し合い、保全活動へのかまえを高めていきたいと考えます。

2015年 **7月31日（金）** 14:00スタート

会場：**三越劇場**（日本橋三越本店6階）

資料代：1,000円（会員無料）

主催：棚田学会 後援：農林水産省 協賛：（公財）損保ジャパン日本興亜環境財団

13:00～ 棚田学会賞授賞式典
授賞式・授賞記念講演
18:00～ 懇親会

シンポジウム 棚田保全にかかわる後継者問題

報告テーマと報告者プロフィール



基調報告 持続可能な棚田保全方策の構築と適用に関する研究
中里 良一 氏 (なかざと りょういち)

NPO法人せんがまち棚田倶楽部 理事

福岡県生まれ。農学博士。鳥取県在住の時に棚田保全活動の動機付けの仕組みとして、「棚田ファンクラブ」や「棚田保全ボランティア隊」等を設立した。静岡県在住の時に菊川市上倉沢地区の棚田保全活動に関わり、保全組織のNPO法人化や「静岡大学棚田研究会」の設立等を主導した。関東、甲信越、沖縄の14大学の学生サークルにより構成される「農業農村を応援する大学生サークルネット」代表として、農業やむらづくりの応援のために農業集落に大学生を派遣しており、白米千枚田（世界農業遺産）の保全活動も応援している。

事例報告(1)

「東京から移住して1年」 石部棚田の保全活動

有馬 稔 氏 (ありま みのる)
伊豆・松崎町地域おこし協力隊



1970年福岡県北九州市生まれ。父の転勤により東京・千葉・神奈川で主に過ごす。大卒後、大手小売企業や出版会社にて約

20年のサラリーマン生活を経て、2014年、総務省主管の事業「地域おこし協力隊」として、伊豆・松崎町の「石部棚田」保全活動に加わる。保存会の指導の元、慣れない農作業に必死についていく毎日。任期満了後も棚田保全に関わっていくため、「住まい」「ナリワイ」を模索中。平成27年度石部地区棚田保全推進委員会役員。

事例報告(2)

限界集落から集落再生のモデル を目指して

山本 浩史 氏 (やまもと ひろし)
十日町市地域おこし実行委員会 代表理事



十日町市出身。2004年中越大震災を契機に会を設立、以後代表。12年NPO認定、代表理事。山間地で米作りを営むかわら、生コン会社に勤務39年。

中越大震災で被災し、2年間米作りを休みながら復旧を果たす。震災復興と集落再生の為、国際NGO JENに支援を要請、承諾を得る。JENが派遣するボランティア受入れ団体「十日町市地域おこし実行委員会」を設立、以後代表を務める。集落の米の直販や都市交流を進め、5年目に「地域おこし協力隊」員として初の移住者家族を受け入れ、以後計5名が移住し「限界集落」から脱却。過疎集落再生のモデルを示し地域再生を展望する活動を展開。

事例報告(3)

「暮らしの場としての棚田」 人口の四割が1ターン

原 和男 氏 (はら かずお)
色川地域振興推進委員会 会長



1955年兵庫県明石市生まれ。京都府立大学農学部卒。1981年和歌山県那智勝浦町色川地域に移住。以来、養鶏(平飼有精卵)と無農薬野菜栽培で生計を立てて

きた。1990年頃から「地域活動」に関わり始め、特に移住者の受け入れをはじめとした外部人材の活用による地域づくりに力を入れている。地域を、「これまで」が「いま」があり、「いま」が「これから」がある』という時の流れの中で捉え、そこに生まれる「受け継いで託す」関係性と真の誇りの再生が何より大切と考えている。2006年から現職。



コメンテーター

中島 峰広 氏 (なかしま みねひろ)
棚田学会 顧問・早稲田大学名誉教授
NPO法人棚田ネットワーク 代表
棚田サミット開催地選定委員長

1933年宮崎県生まれ。学術博士。2004年まで早稲田大学教育学部教授。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事。「日本の棚田百選」選定委員。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』(1999年、古今書院)、『百選の棚田を歩く』(2004年、古今書院)、『続・百選の棚田を歩く』、『棚田 その守り人』(2012年、古今書院)、『棚田保全の歩み』(2015年、古今書院)。



コーディネーター・司会

山路 永司 氏 (やまじ えいじ)
棚田学会 副会長

東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授
専門は、農地工学・農村計画学とこれらをベースにした国際協力学。大学院 修士時代からでっかい水田を研究対象とし、千葉・埼玉・八郎潟・南幌・カリフォルニア・オーストラリア・イタリア等々の広い水田内を這い回る。1999年に鴨川市大山千枚田と遭遇し、棚田に目ざめる。草刈りボランティアを経て晴れてオーナーに昇格。収穫祭の舞台でアカペラで歌うのも楽しみ。

申し込み用紙

シンポジウム(資料代1000円 会員無料)に参加します。☐懇親会(会費6,000円)にも参加します。
(懇親会参加ご希望の方は☐にレ印を付けて下さい。)

お名前

所属

E-mail

今後棚田学会の催し物の御案内をご希望の方は、E-メールアドレスをご記入下さい。

申し込み先…FAX.042-385-1180 E-mail: tanadagakukai@gmail.com (大会事務局専用)